

# 神戸輝夫の 二豊漢学講座

## 2023年度(第七期)

大分県の文化的土壌の底層には二豊(豊前・豊後)の各地で花開いた漢学が息づいています。漢学とは特に江戸時代に学ばれた中国伝来の学問の総称です。具体的には哲学、歴史学、文学、地理学、漢方(医学)、本草学、天文学、数学、農学、書道、絵画、武術などの分野に及んでいます。この講座では、二豊の著名な漢学者について紹介します。

かんべてるお

講師：神戸 輝夫

元APU孔子学院学院長、前APU教授、大分大学名誉教授

1939年4月 京都生まれ

1964年3月 京都大学文学部史学科(東洋史学専攻)卒業

1966年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了

1970年3月 同博士課程単位取得満期退学

大分大学教育学部長、放送大学大分学習センター長などを歴任。

主な研究分野は、中国における漢族と少数民族の摩擦問題、

アジア・太平洋戦争期における日本の中国文化侵略、

大友宗麟時代の中国・朝鮮・東南アジア交流史研究、

シルクロード文化史研究。

2017年11月 瑞寶中綬章 受章



4年ぶりの開講。  
皆様とお会いできるのを  
楽しみにしております。

### 前期

【第一回】 5月12日(金) 13:00~14:30 『中津藩士福澤百助、諭吉父子の漢学』

【第二回】 6月30日(金) 13:00~14:30 『森藩士加藤海助の女(むすめ)貞と北里柴三郎』

【第三回】 7月21日(金) 13:00~14:30 『岡藩士伊藤鏡河の漢詩集に見る岡藩士との交流』

後期(予定) ※日程は変更になる可能性があります。詳細が決まり次第お知らせいたします。

【第四回】 10月20日(金) 午後 『怪異を語る肥後藩士脇蘭室(愚山)』

【第五回】 11月17日(金) 午後 『廣瀬旭荘(大坂)と劉君鳳(京都)の交友』

定員：各回100名

参加料：無料

お申込み：次ページに記載

※参加申込必須

会場：J:COMホルトホール大分

【第一回】 大会議室

【第二回】 201・202会議室

【第三回】 大会議室

※開始30分前からご入場いただけます。

共催：立命館アジア太平洋大学孔子学院、日本中国友好協会大分支部

# 神戸輝夫の二豊漢学講座

2023年度(第七期)

## 前期講座の内容

【第一回】5月12日(金) 13:00~14:30

### 『中津藩士福澤百助、諭吉父子の漢学』

福澤百助は日出藩の帆足萬里に師事していた。その漢学のレベルは高い。諭吉の名前の由来も入手した漢籍の書名に因んでいる。諭吉はオランダ語から英語に転じ西洋文化の紹介に務めた啓蒙家であるが彼の教養の基礎は漢学にある。



中津市の明蓮寺にある  
福沢家祖先の墓

【第二回】6月30日(金) 13:00~14:30

### 『森藩士加藤海助の女(むすめ)貞と北里柴三郎』

森藩士加藤海助の二女は貞(てい)と言い長じて肥後藩小国村の総庄屋北里惟信に嫁した。柴三郎はその長男である。柴三郎の教養の基礎にも漢学がある。貞の父海助は藩務の傍ら漢学の勉強にも精を出した。加藤家の人々は森藩きっての教養人であった。



北里柴三郎記念館から  
涌蓋山を望む

【第三回】7月21日(金) 13:00~14:30

### 『岡藩士伊藤鏡河の漢詩集に見る岡藩士との交流』

伊藤鏡河は江戸在勤時代に漢詩人安達清河に学んだ。鏡河の漢詩は「伊藤寛叔先生詩集」などに残されている。その中には師でもあった藩校由学館教授唐橋世済や後輩田能村竹田など藩士との交流を詠ったものも多い。



岡藩藩校由学館門

## お申込みについて

事前申込が必要です。受講日の2日前までにお申込みください。

お申込みは、各回定員100名・先着順で受付いたします。

申込書をお持ちの方：申込書を事務局までFAX、郵送またはメールでお送りください。

申込書は下記ホームページよりダウンロードすることも可能です。

申込書をお持ちでない方：①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 ④受講予定回を事務局まで

FAX、メール、お電話または郵送にてご連絡ください。

## お問合せ・お申込み

立命館アジア太平洋大学 孔子学院事務局

(対応可能時間：平日9:00~17:30)

住所：〒874-8577

電話：0977-78-1188

大分県別府市十文字原1-1

FAX：0977-78-1189

立命館アジア太平洋大学

メール：confuapu@apu.ac.jp

BII棟1階

ホームページ：http://apu-confucius.com/